



PREMIUM WATER HOLDINGS

2026年3月期 第2四半期（上期）
決算説明会資料

株式会社プレミアムウォーターホールディングス

東証スタンダード：2588

2025年11月18日（火）



目次



2026年3月期上期 決算ハイライト

2026年3月期上期 業績

株主還元

市場動向

今後の戦略

Appendix



PREMIUM WATER
HOLDINGS

2026年3月期上期 決算ハイライト

1

上期営業利益において過去最高益達成。7期連続増益

2

保有顧客数は前期末比 **6万件増**(※)の179万件

(※)前年上期対比**20%増**



● 2026年3月期第2四半期連結累計実績

売上収益 **40,347** 百万円

営業利益 **6,737** 百万円

親会社の所有者に
帰属する中間利益 **3,936** 百万円

EBITDA **12,994** 百万円

● 通期業績予想に対する進捗





ウォーターサーバー (宅配水) 市場シェア

32.0%

(※)

2025年9月末時点

179万件

2016年7月
経営統合



39万件

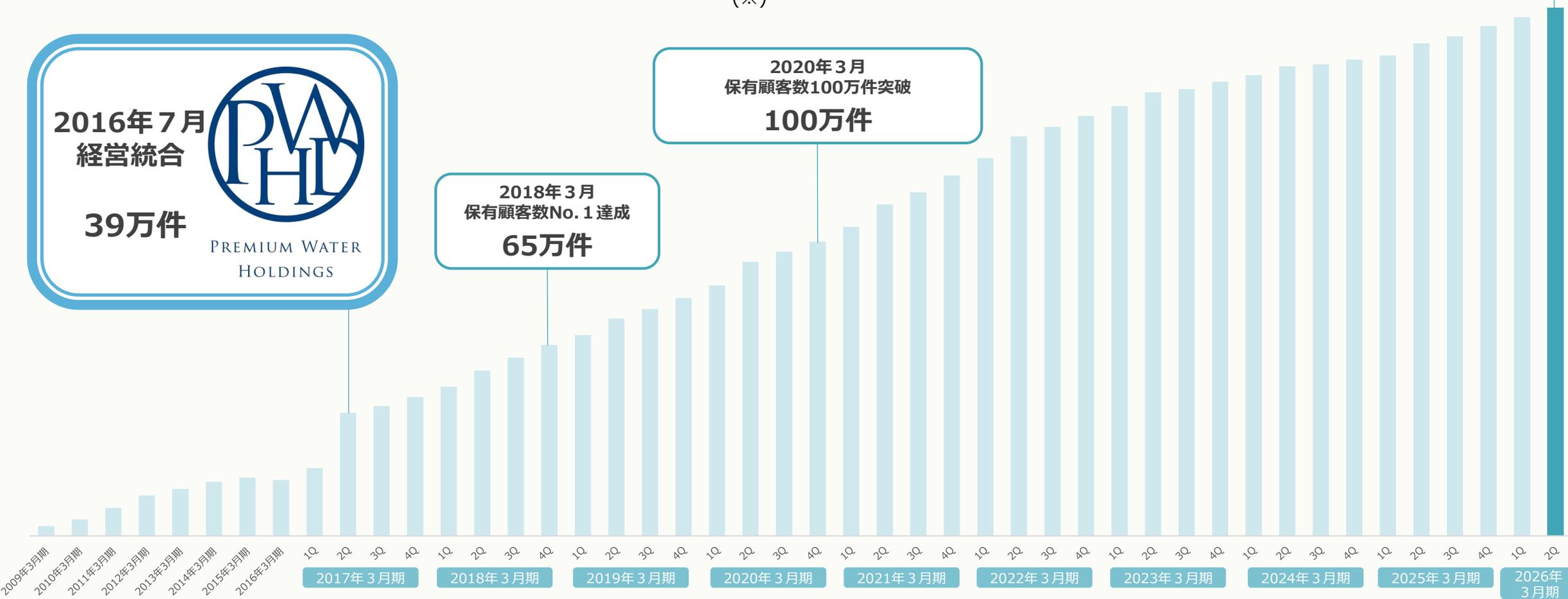
PREMIUM WATER HOLDINGS

2020年3月
保有顧客数100万件突破

100万件

2018年3月
保有顧客数No. 1達成

65万件



(※) 2025年9月末時点の当社宅配水サービス顧客数 ÷ 日本宅配水&サーバー協会 (JDSA) の統計数字に基づく



PREMIUM WATER
HOLDINGS

2026年3月期 上期（4月-9月）業績



新規獲得件数の増加に伴う保有顧客数の増加により、売上収益・営業利益ともに前年同期よりも増加。

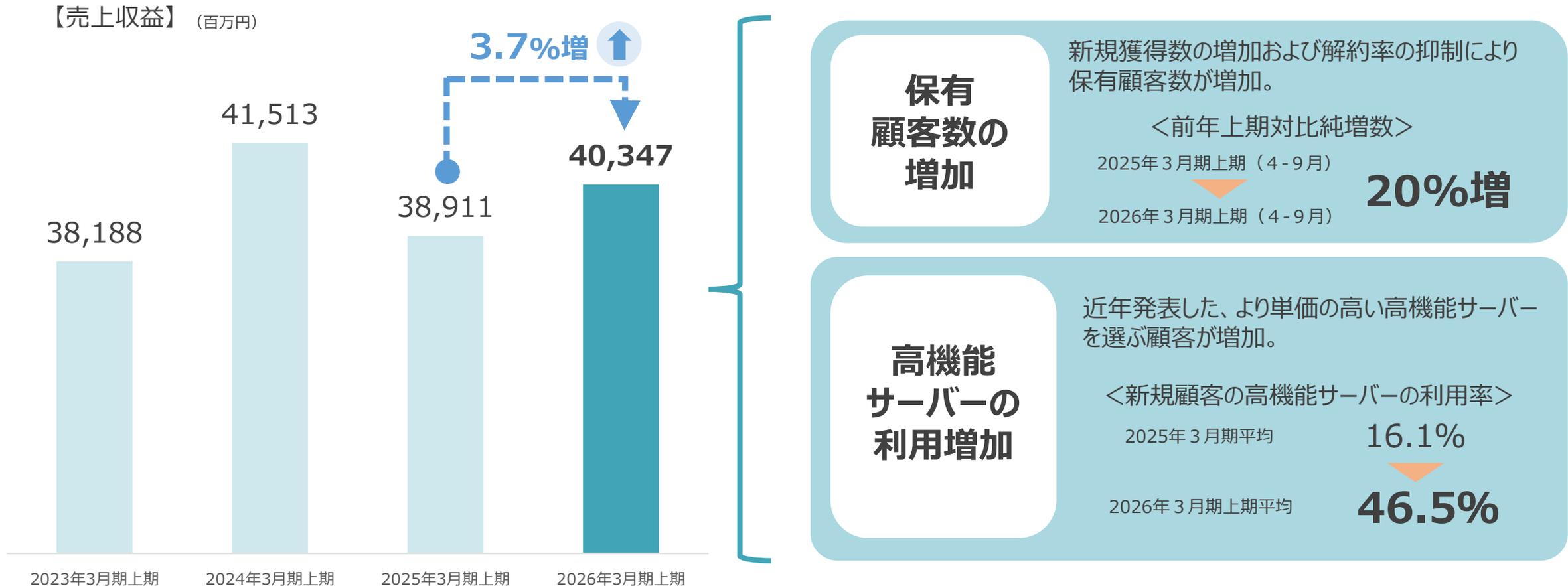
営業利益率も前年同期より**1.3ポイント増**で、収益構造がより強固になっている。

(百万円)

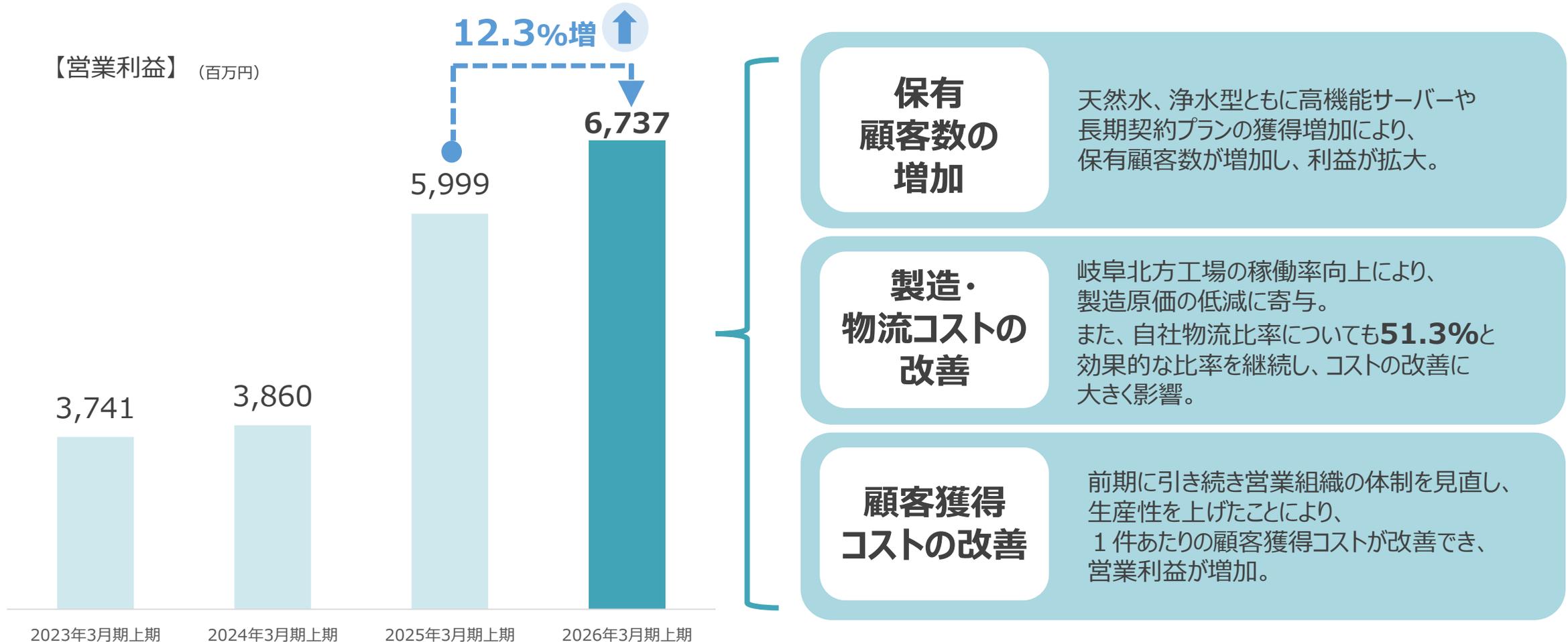
	2025年3月期 第2四半期連結累計期間		2026年3月期 第2四半期連結累計期間			
	実績	百分比	実績	百分比	対前年同期増減額	前年同期比
売上収益	38,911	100.0%	40,347	100.0%	1,435	103.7%
売上総利益	33,042	84.9%	34,640	85.9%	1,597	104.8%
営業利益	5,999	15.4%	6,737	16.7%	737	112.3%
金融収益	69	0.18%	279	0.7%	210	403.7%
金融費用	469	1.21%	664	1.6%	194	141.4%
税引前中間利益	5,038	12.9%	6,059	15.0%	1,020	120.3%
親会社の所有者に 帰属する中間利益	3,128	8.0%	3,936	9.8%	807	125.8%
1株あたり 中間利益（円）	105.06	—	132.52	—	27.46	126.1%
EBITDA	11,959	—	12,994	—	1,034	108.7%

天然水および浄水型の保有顧客数の増加により、売上収益は前年同期より**3.7%増加**。

直近では利便性の高い高機能サーバーを選択する顧客も増加したことで、さらに売上収益が増加傾向。

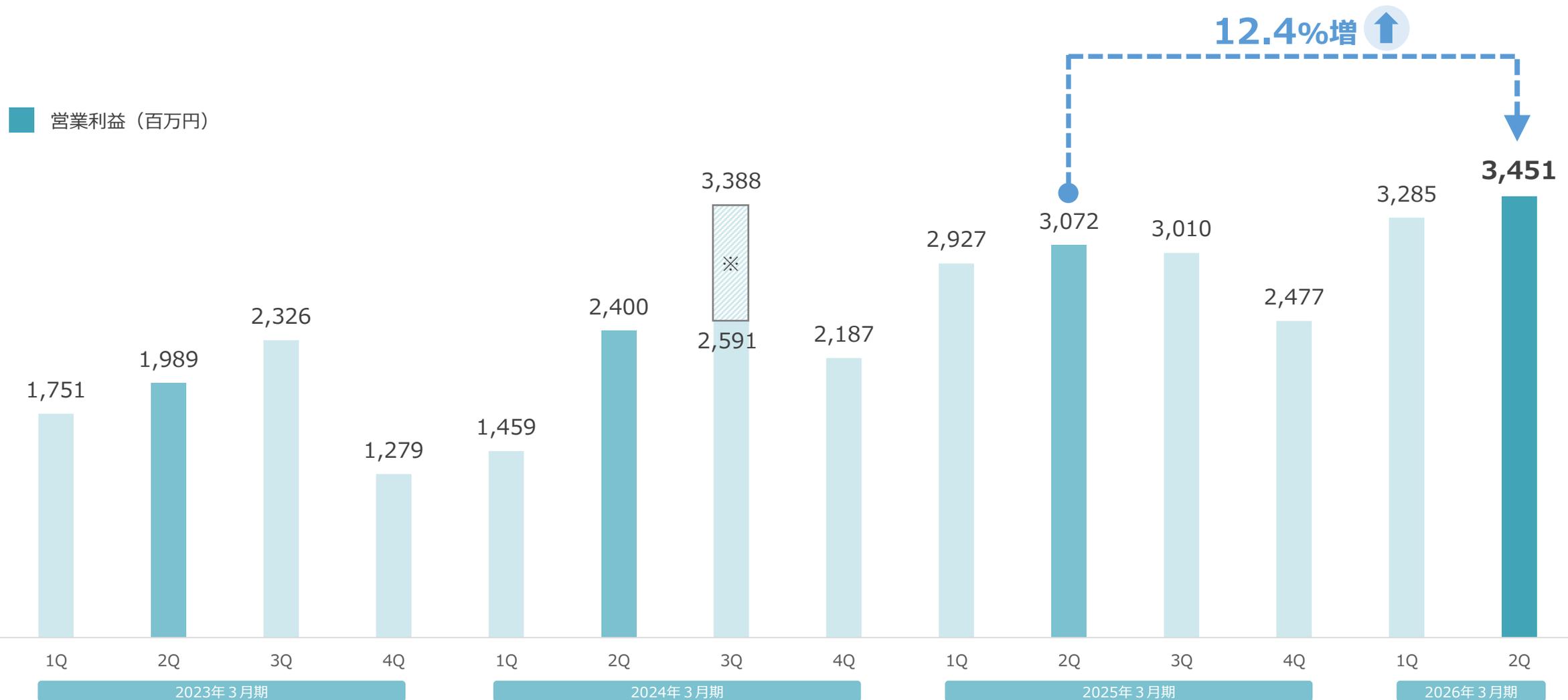


天然水、浄水型のそれぞれのニーズに合わせた顧客の獲得ができたことで、保有顧客数が増加し、売上収益と合わせて営業利益も増加。さらに製造、物流面でのコスト改善も影響し、営業利益が拡大。





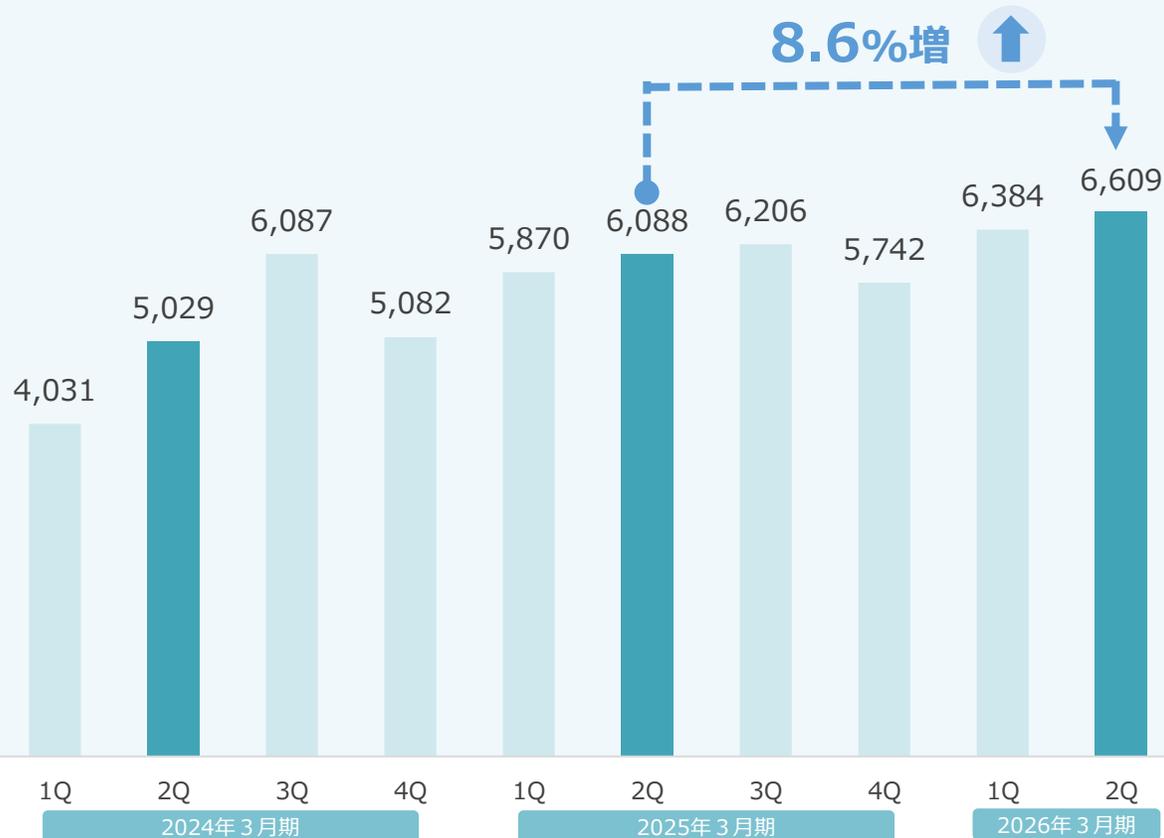
特殊要因を含めたすべての四半期営業利益でも、過去最高益となる。



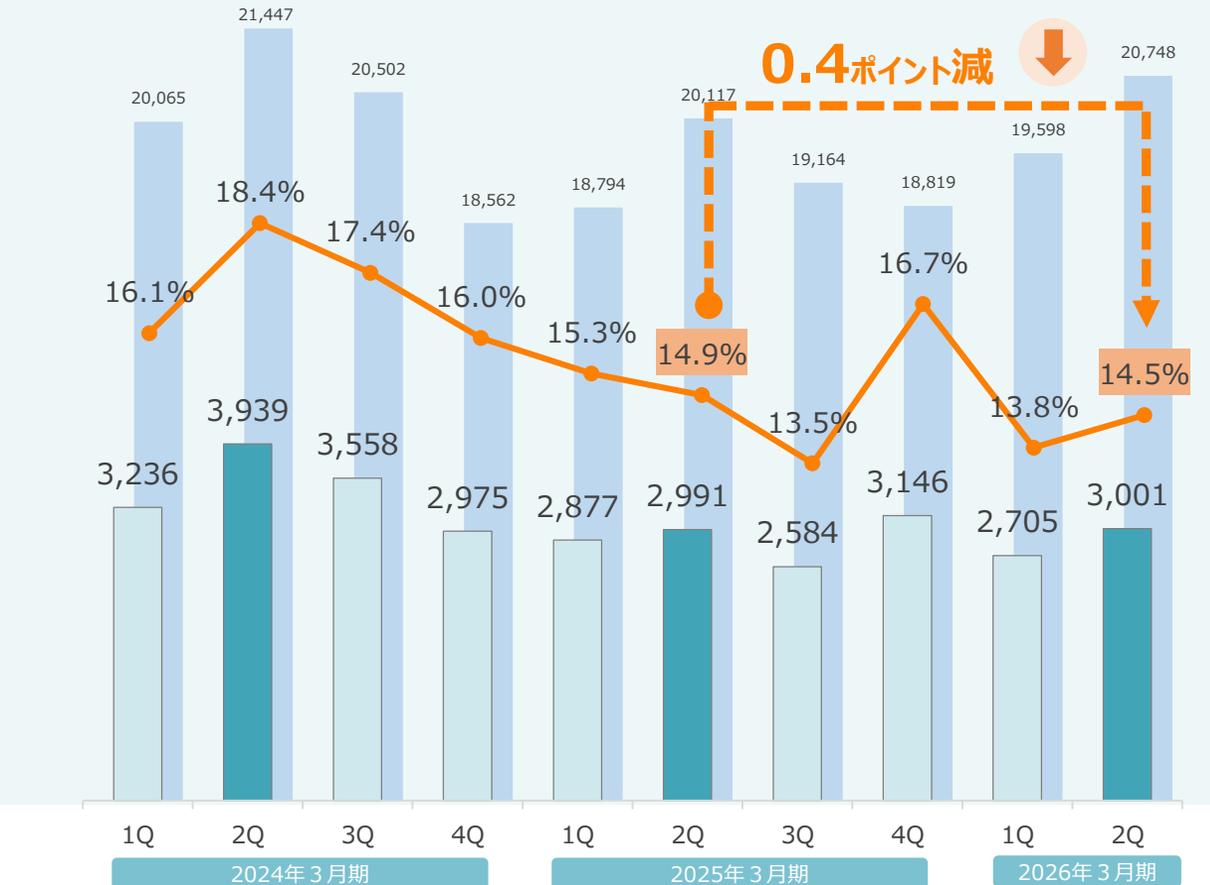
※特殊要因：営業子会社の株式譲渡による利益797百万円を含む

前年同期と比較し、EBITDAは順調に増加。保有顧客数の増加に伴い売上収益も増加しているが、売上原価は前年同期と同等を維持しており、売上原価率は0.4ポイント改善。

EBITDA (百万円)



売上収益 (百万円) ■ 売上原価 (百万円) — 売上原価率





連結貸借対照表 - 2026年3月期上期(9月末)前期末比較 -



(百万円)

	2025年3月期 期末		2026年3月期 第2四半期連結累計期間			
	実績	百分比	実績	百分比	前期末増減額	前期末比
流動資産	47,324	42.2%	49,201	40.1%	1,876	104.0%
非流動資産	64,751	57.8%	73,604	59.9%	8,852	113.7%
資産合計	112,076	100.0%	122,805	100.0%	10,729	109.6%
流動負債	43,076	38.4%	45,124	36.7%	2,047	104.8%
非流動負債	43,927	39.2%	49,786	40.5%	5,859	113.3%
(有利子負債)	67,770	60.5%	74,701	60.8%	6,931	110.2%
負債合計	87,003	77.6%	94,910	77.3%	7,906	109.1%
資本合計	25,073	22.4%	27,895	22.7%	2,822	111.3%
負債及び資本合計	112,076	100.0%	122,805	100.0%	10,729	109.6%
親会社所有者帰属持分比率	22.4%	—	22.7%	—	—	—
流動比率	109.9%	—	109.0%	—	—	—



(百万円)

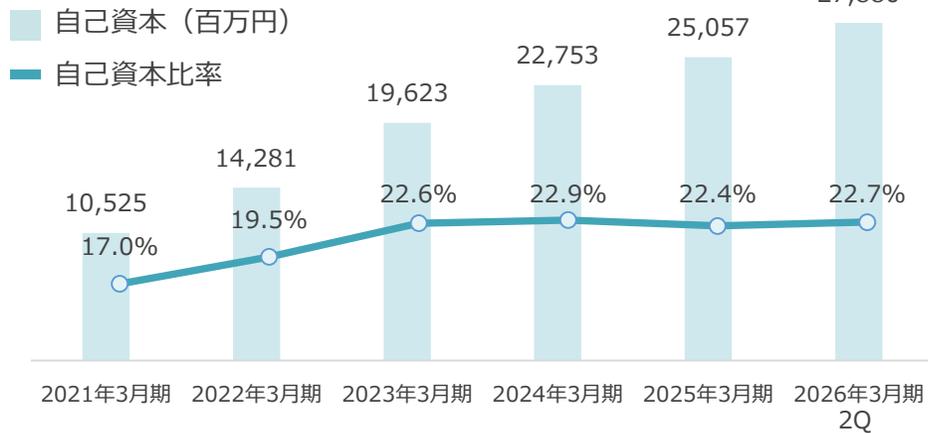
	2025年3月期 第2四半期連結累計期間	2026年3月期 第2四半期連結累計期間	
	実績	実績	主な内訳
営業活動による キャッシュ・フロー	10,265	11,086	税引前中間利益 6,059百万円 減価償却費及び償却費 6,256百万円 契約コストの増減額(△は増加) △1,687百万円 法人所得税の支払額 △2,077百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	△6,457	△6,745	有形固定資産及び無形資産の取得による支出 △1,827百万円 投資有価証券の取得による支出 △4,227百万円
フリー・キャッシュ・フロー	3,808	4,341	
財務活動による キャッシュ・フロー	△6,671	△1,845	長期有利子負債の収入 7,084百万円 長期有利子負債の支出 △7,068百万円 配当金の支払額 △1,631百万円
現金及び現金同等物の 期末残高	27,669	34,404	



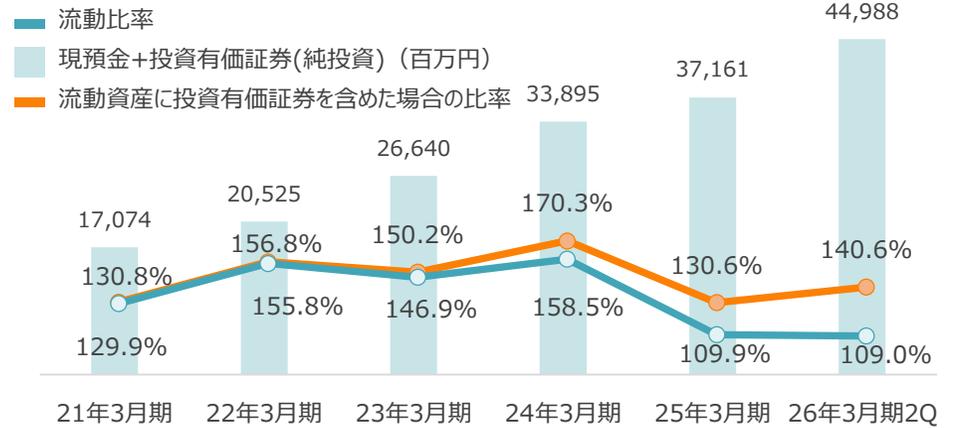
自己資本比率は30%を目標。2025年3月期以降の流動比率の低下は、1年以内償還予定の社債の増額が影

響。

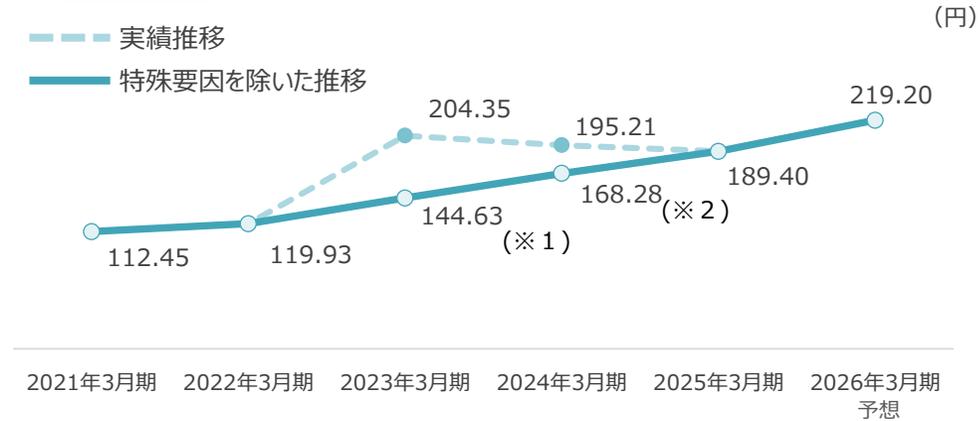
● 自己資本・自己資本比率



● 流動比率・現預金+投資有価証券（純投資）



● 基本的 1株あたり当期利益 (EPS)



ROE 24.6% (2026年3月末予想)

- ※1 2023年3月期において、当期利益は6,057百万円だったが、特殊要因として繰延税金資産の計上分1,753百万円を含んでいるため、その特殊要因を除いた当期利益は4,304百万円。
- ※2 2024年3月期において、当期利益は5,777百万円だったが、特殊要因として子会社譲渡の売却益797百万円を含んでいるため、その特殊要因を除いた当期利益は4,980百万円。



PREMIUM WATER
HOLDINGS

株主還元

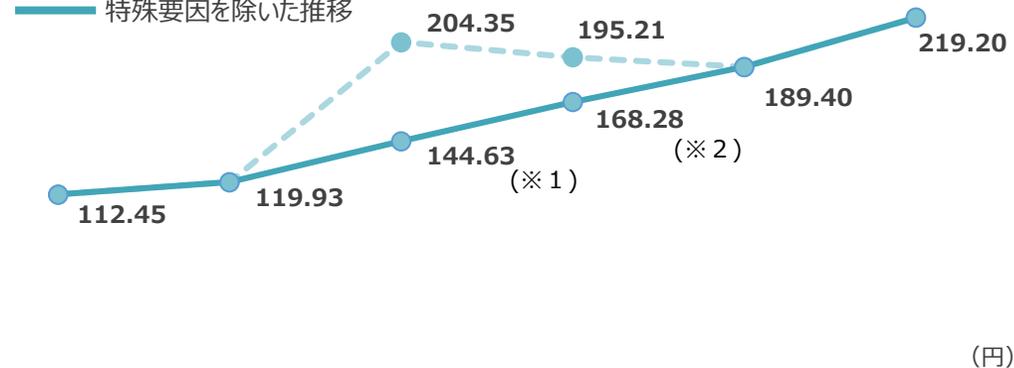


当社のPBRは3倍以上で国内では高水準、PERについてもスタンダード市場では高水準となる。
引き続き当社株式の価値を高め、株主還元を強化していく方針。

● 基本的 1株あたり当期利益 (EPS)

--- 実績推移

— 特殊要因を除いた推移



(円)

2021年3月期 2022年3月期 2023年3月期 2024年3月期 2025年3月期 2026年3月期
予想

※1 2023年3月期において、当期利益は6,057百万円だったが、特殊要因として繰延税金資産の計上分1,753百万円を含んでいるため、その特殊要因を除いた当期利益は4,304百万円。

※2 2024年3月期において、当期利益は5,777百万円だったが、特殊要因として子会社譲渡の売却益797百万円を含んでいるため、その特殊要因を除いた当期利益は4,980百万円。

● 株価収益率 (PER)

15.26倍

スタンダード市場平均よりも高め
安定的に利益を創出

※2025年9月末時点

※プライム市場平均：17.0倍 スタンダード市場平均：14.5倍
(東証発表 2025年9月末時点)

● 株価純資産倍率 (PBR)

3.59倍

日本国内では高水準

※2025年9月末時点

※プライム市場平均：1.3倍 スタンダード市場平均：0.9倍
(東証発表 2025年9月末時点)



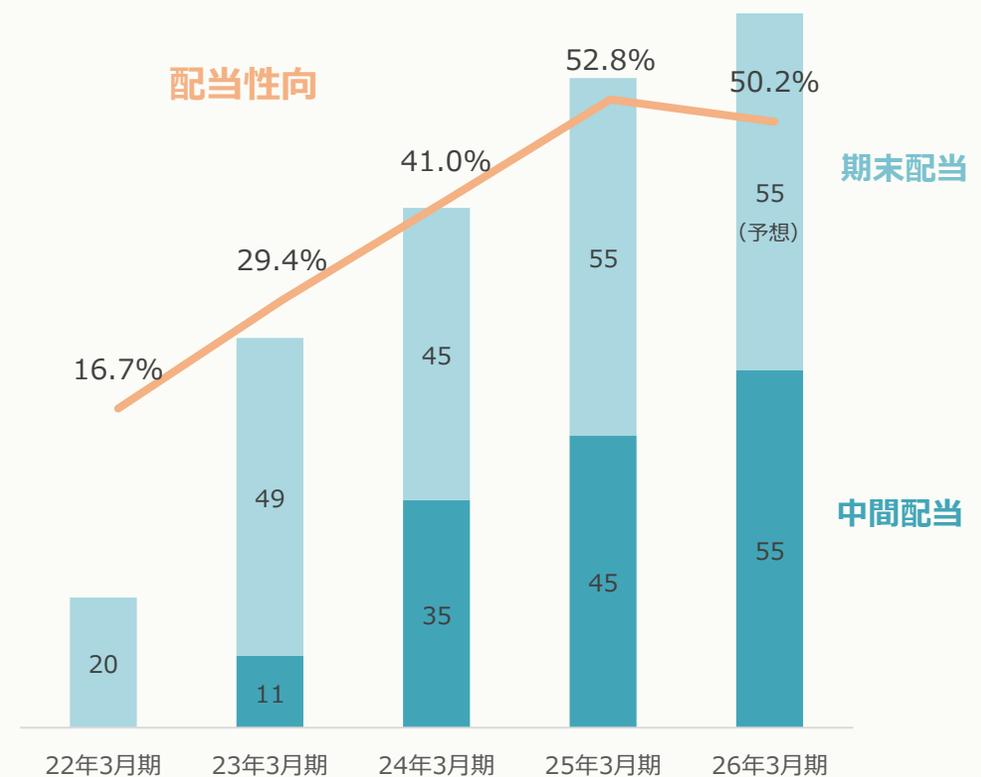
2025年3月期の期末配当から引き続き、2026年3月期中間配当は**55円**。

また2025年5月に開始した**5億円**の自社株式取得は10月15日で完了。

今後も内部留保や設備投資への成長投資とのバランスを考慮しながら**安定的な増配を継続する方針**。

(円)

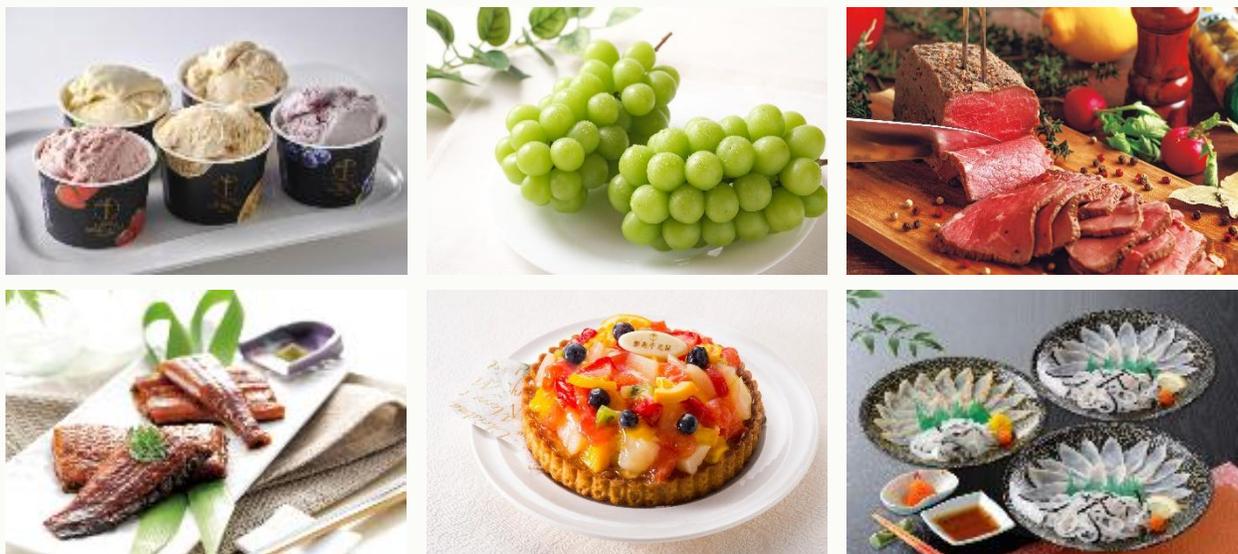
	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期
中間配当 <small>(基準日：9月末日)</small>	—	11.00	35.00	45.00	55.00
期末配当 <small>(基準日：3月末日)</small>	20.00	49.00	45.00	55.00	55.00 (予想)
合計	20.00	60.00	80.00	100.00	110.00 (予想)
配当利回り	0.83%	2.40%	2.52%	3.51%	3.29%
	<small>(2022年3月末時点)</small>	<small>(2023年3月末時点)</small>	<small>(2024年3月末時点)</small>	<small>(2025年3月末時点)</small>	<small>(2025年9月末時点)</small>





2025年3月期は、当社株式を100株以上保有の株主様へ5,000円相当のカタログギフトをお届け。
また、当社の天然水をご契約の株主様には、さらに天然水1セットを無料でプレゼント。

【優待品①】
5,000円相当のカタログギフト



カタログギフトの品数を20品に拡充！

【優待品②】
天然水1セット（2本）

宅配水サービスご契約者様限定
ナチュラルミネラルウォーター
1セット(2本)プレゼント





PREMIUM WATER
HOLDINGS

市場動向



展開可能な潜在的市場は **5兆円**規模。

ウォーターサーバー市場

2,193億円 ※1

《内訳》

宅配水	1,792億円
給水型	354億円
水道直結型	47億円

浄水器市場

512億円 ※1

ミネラルウォーター市場

4,664億円 ※2

炭酸飲料

6,429億円 ※2

無糖茶飲料

(日本茶・麦茶 等)

9,092億円 ※2

清涼飲料市場

5兆5,506億円 ※2

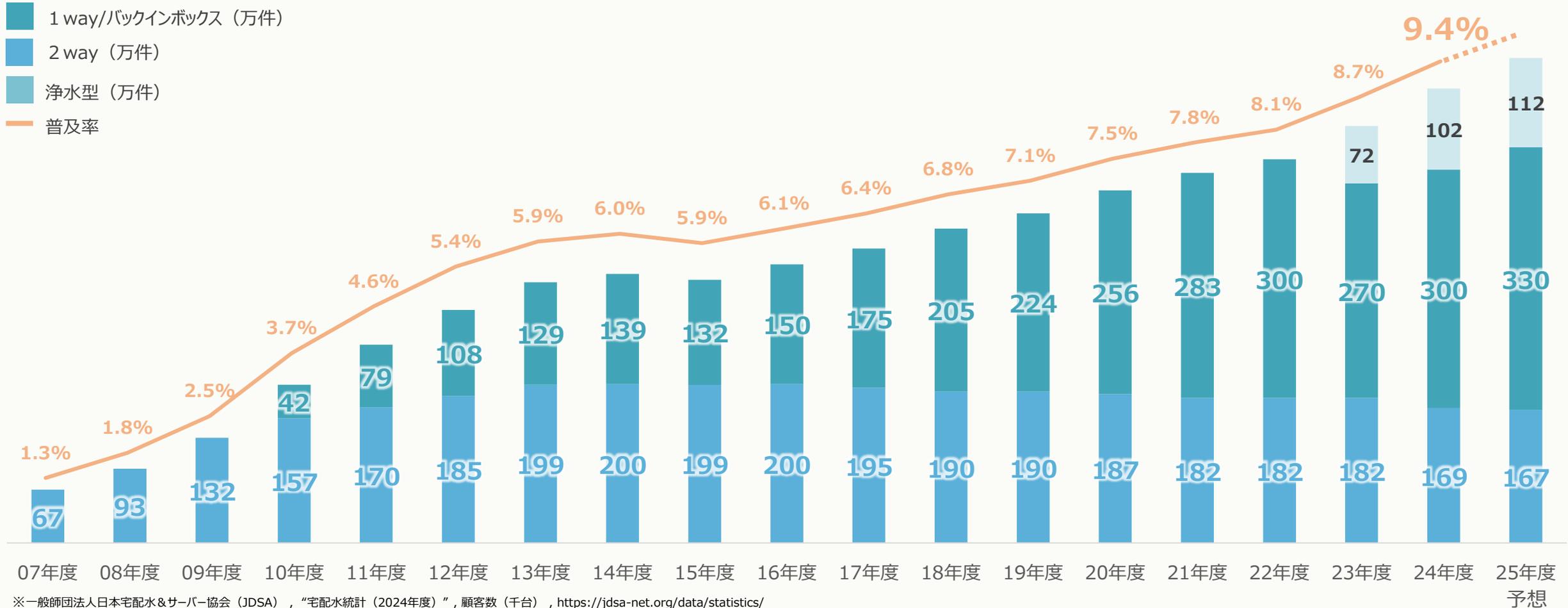
コーヒー飲料

8,167億円 ※2

※1 矢野経済研究所調べ (2024年度見込み)

※2 富士経済調べ (2024年見込み)

世帯普及率は、**9.4%**(※)程度と、国内には拡大の余地がある。



※一般財団法人日本宅配水&サーバー協会 (JDSA)，“宅配水統計 (2024年度)”，顧客数 (千台)，<https://jdsa-net.org/data/statistics/>
 総務省，“住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数”，“○資料2 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 (令和6年1月1日現在)”，P66，https://www.soumu.go.jp/main_content/000959269.pdf
 【算出式】：日本宅配水&サーバー協会 (JDSA) の統計数字 2024年度宅配水市場顧客数 (571万件) ÷ 総務省「令和6年1月1日時点住民基本台帳に基づく世帯数 (6,077万 9,141世帯)」



ウォーターサーバー業界で顧客数を開示している企業において、当社が最も多くの顧客数を保有。

ガス会社系

連結 子会社 岩谷産業	富士の湧水 「富士の湧水」 1way 10万件	TOKAI 「うるのん」 1way 14万件 「おいしい水の宅配便」 2way	グループ 会社 レモンガス
	トール 「ハワイウォーター」 1way 2way 25万件 「アルピナ」 1way 2way	エアウォーター 「AW・ウォーター」 1way 「北アルプスの天然水」 1way 「AW・ウォーター」 2way	
	大丸エナウイン 「エフィールウォーター」 1way 2way 「スーパーバナジウム」 1way 2way 富士ミネラル天然水 1way 2way	アクアクララ 「アクアクララ」 2way 「ハピットアクア」 浄水 48万件	

レンタル・クリーン・オフィスサービス系

ナック 「クリクラ」 2way 「feel free」 浄水 43万件 ※宅配水のみ件数	ダイオーズ 「ピュアウォーター」 2way 20万件 ※顧客数はクリーンサービス等を含む
	サニクリーン 「ディスティオ」 2way 「サニクリーンの天然水」 1way

飲料メーカー

サントリービバレッジソリューション 「サントリー天然水<南アルプス>」 1way

水宅配事業

連結 子会社 OSGコーポ レーション	プレミアムウォーターホールディングス 「プレミアムウォーター」 1way 「Locca」 浄水 179万件 ※2025年9月末時点
	いずみや「スイークレイ」 2way
	マーキュロップ 「マーキュロップ 富士山の天然水」 2way
ウォーターネット 「ウォーターネット」 2way	富士山GXホールディングス (旧富士山の銘水) 「フレッシュ」 1way 100万件 「エブリフレッシュ」 浄水
	コスモライフ 「コスモウォーター」 1way 50万件 「ハミングウォーター」 浄水

異業種・新規参入・その他

ジャパネットウォーター 「ジャパネットウォーター」 1way 16万件 富士山の天然水	中京医薬品 「アクアマジック」 1way 2way
Kirala 「Kirala Water」 1way 「Kirala Fresh Server」 浄水	サンエス 「サンミネラル」 1way 2way
富士開発観光 「ふじざくら命水」 1way	



近年「水」をとりまく社会問題は増えている。

水道管の老朽化

全国的に整備された水道管は耐用年数といわれる「40年」を越えている地域も多く、今後更新していく必要がある。しかし、**人口問題と合わせて更新費用についても今後の問題となっている。**

PFAS問題

国内の一部地域の地下水や河川で高濃度のPFASが検出され^(※)、健康被害が懸念される。**水道法の水質基準が厳格化され、2026年4月からはPFAS対策が義務化となる予定。**

地震等の自然災害

今後30年以内に南海トラフ地震が起きる可能性が約60～90%と地震調査研究推進本部より発表されている。地震だけでなく、近年洪水や土砂災害も増えており**飲料水の備蓄は、重要な対策になっている。**

企業の熱中症対策

2025年6月から企業における熱中症対策が義務化されている。屋外の作業者だけでなく、屋内でも熱中症のリスクは高くなっているため、**適切な水分補給ができる環境整備が必要になっている。**



日本で今後30年以内にM8～9クラスの南海トラフ地震が起きる確率は約60～90%(*1)とされている。台風や大雨による被害なども増えており、災害備蓄の必要性が高まっている。

令和元年以降気象庁が名称を定めた気象・地震・火山現象一覧

気象現象	令和元年房総半島台風	房総半島を中心とした各地で暴風等による被害。台風「ファクサイ」。
	令和元年東日本台風	東日本の広い範囲における記録的な大雨により大河川を含む多数の河川氾濫等による被害。台風「ハギビス」。
	令和2年7月豪雨	「熊本豪雨」。西日本から東日本の広範囲にわたる長期間の大雨。球磨川（熊本県）などの河川氾濫や土砂災害による被害。
地震現象	令和6年能登半島地震	志賀町、輪島市（石川県）で震度7。家屋や港湾施設等の被害のほか、津波や土砂災害、大規模な火災による被害が多数発生。

※引用：国土交通省、気象庁ホームページ「気象庁が名称を定めた気象・地震・火山現象一覧」https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/meishou/meishou_ichiran.html, (参照2025年11月10日)

令和5年以降災害をもたらした気象事例

令和7年(2025年)	低気圧と前線による大雨(速報)	8月6日～8月12日	北日本から西日本にかけての広い範囲で大雨。総降水量が600ミリを超えた地点や、平年の8月の月降水量の3倍以上となった地点があった。
令和6年(2024年)	低気圧と前線による大雨(速報)	9月20日～9月22日	東北地方から西日本にかけての広い範囲で大雨。特に石川県能登では線状降水帯による猛烈な雨。総降水量は石川県で500ミリを超え、平年の9月の月降水量の2倍を上回る地点があるなど、北陸地方や東北地方の日本海側では記録的な大雨。
	令和6年台風第10号による大雨、暴風及び突風(速報)	8月27日～9月1日	西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨。九州では暴風となり、海上では猛烈なしけや大しけ。宮崎県で突風が複数発生。
	梅雨前線と低気圧による大雨(速報)	7月23日～7月26日	北日本を中心に大雨。山形県では期間降水量の合計は400ミリを超え、平年の7月の月降水量を大きく上回る記録的な大雨となった所があった。
令和5年(2023年)	令和5年台風第13号による大雨(速報)	9月7日～9月9日	台風の中心から離れた場所でも雨雲が発達して、関東甲信地方や東北太平洋側では大雨。このうち、東京都(伊豆諸島)、千葉県、茨城県及び福島県では線状降水帯が発生し、猛烈な雨。
	梅雨前線による大雨(速報)	6月28日～7月16日	各地で大雨となり、期間降水量の合計は大分県、佐賀県、福岡県で1200ミリを超えた。
	梅雨前線及び台風第2号による大雨(速報)	6月1日～6月3日	西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨となり、期間降水量の合計は平年の6月の月降水量の2倍を超えた地点があった。

※引用：国土交通省、気象庁ホームページ「災害をもたらした気象事例」https://www.data.jma.go.jp/stats/data/bosai/report/index_1989.html, (参照2025年11月10日)

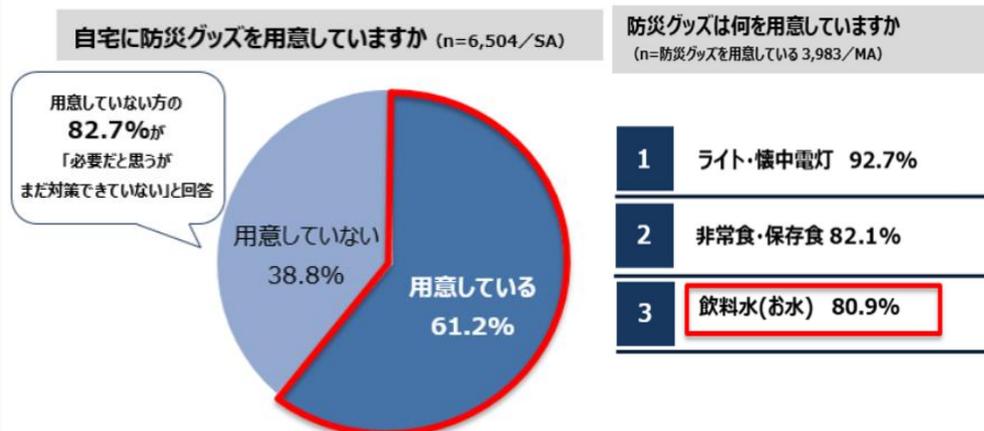
災害後、インフラが再開する日数

電気・水道・ガスが9割程度復旧するまでの日数		
	東日本大震災(2011/3/11)	阪神淡路大震災(1995/1/17)
電気	6日	2日
水道	24日	37日
ガス	34日	61日

災害後、最も復旧に時間がかかるのが水道。水の復旧は、約1ヶ月(30日)かかる想定。

※引用：日本気象協会、tenki.jp「知る防災」https://tenki.jp/bousai/knowledge/48ae160.html, (参照2025年11月10日)

防災意識に関する調査結果



※引用：プレミアムウォーター株式会社、「防災に関する意識調査(2025年2月27日)」https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000197.000045997.html

水道管の老朽化やPFAS問題は、「水道水への不安」と表すことができる。
 水道料金を支払う住民の負担や、水道以外の給水方法の検討が今後の課題になると予想される。

■ 人口減少時代の水道料金 全国推計 推計結果（2024年版）
 （公表統計データを基に、一定の前提を置いて推計）

値上げ率 順位	都道府県	料金 改定率	料金 改定年度	料金 (2021 年度) (20m ³ 使用時) (円)	将来予測値 (20m ³ 使用時) (円)	総人口 減少率	2046年 想定人口
1	岩手県	+61%	2028年度	3,853	6,194	-30%	839,144
2	香川県	+59%	2027年度	2,970	4,728	-20%	754,056
3	愛媛県	+55%	2027年度	3,294	5,114	-25%	995,678
4	青森県	+52%	2026年度	4,507	6,842	-33%	817,660
5	高知県	+52%	2029年度	2,491	3,779	-30%	480,971
6	長崎県	+49%	2028年度	3,847	5,718	-29%	925,427
7	島根県	+47%	2028年度	3,766	5,553	-22%	519,139
8	鳥取県	+47%	2026年度	2,782	4,088	-22%	425,103
9	山梨県	+47%	2027年度	2,405	3,531	-21%	639,320
10	山口県	+46%	2027年度	2,945	4,310	-26%	978,049
11	新潟県	+45%	2026年度	3,256	4,730	-26%	1,614,604
12	秋田県	+45%	2028年度	3,781	5,490	-35%	609,725
13	福島県	+45%	2029年度	3,763	5,458	-27%	1,328,387
14	宮崎県	+41%	2026年度	2,954	4,170	-21%	833,326
15	茨城県	+40%	2026年度	4,025	5,640	-18%	2,336,023
16	京都府	+39%	2025年度	3,153	4,396	-16%	2,151,490
17	富山県	+39%	2028年度	3,094	4,305	-22%	797,137
18	北海道	+39%	2028年度	4,376	6,075	-22%	4,018,117
19	静岡県	+39%	2026年度	2,402	3,334	-18%	2,944,525
20	群馬県	+39%	2028年度	2,492	3,456	-18%	1,581,585



【国土交通省発表文面】

「小規模な集落が散在する地域においては、莫大な費用をかけて水道施設を整備・更新することは困難と考えられ、このような場合は、**宅配給水**や移動式浄水処理装置の巡回など、従来の水道事業が行ってきた施設による供給とは異なる衛生的な水の供給についての検討もやむを得ないと考えられる。」

引用：国土交通省，“令和元年度人口減少地域における多様な給水方法の検討に関する調査”，第一章 調査の概要，P1，
https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/watersupply/stf_seisakunitsuite_bunya_0000205762_00004.html

表 2.2.1 検討対象の給水方法

給水方法	中山間部	離島
給水方法 1	浄水施設（消毒あり）＋通常配管	同左
給水方法 2	浄水施設（消毒あり）＋廉価配管	同左
給水方法 3	①ボトル水宅配、②浄水施設（消毒なし）＋廉価配管	同左
給水方法 4	①ボトル水宅配、②近傍水源＋各戸型浄水装置（消毒なし）	同左
給水方法 5	近傍水源＋各戸型浄水装置（消毒あり）	同左
給水方法 6	給水車による運搬給水	浄水施設（消毒あり）＋給水車による運搬給水
給水方法 6-1	-	給水船＋給水車による運搬給水
給水方法 6-2	-	海底送水管＋給水車による運搬給水

引用：国土交通省，“令和元年度人口減少地域における多様な給水方法の検討に関する調査”，第二章 多様な給水方法の検討，P14，表2.2.1“検討対象の給水方法”
https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/watersupply/stf_seisakunitsuite_bunya_0000205762_00004.html



PREMIUM WATER
HOLDINGS

今後の戦略



獲得コストを意識しながら
保有顧客数を**純増**させ続ける

新規獲得

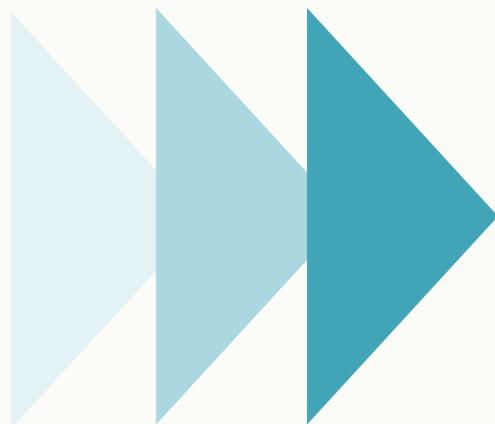
+

顧客満足度
向上

=

保有顧客数
の
純増

営業戦略によって保有顧客数を増加させることで、水源・物流戦略につなげ、利益の拡大および利益率向上を追求していく。



【水源戦略】





新規獲得

- ・約1,400名の営業員が全国各地で毎日稼働
- ・直販の生産性強化



- ・強い販路をもつ企業との連携強化
- ・他社との新しい取り組み

LASTONEMILE

東証グロース 証券コード：9252

INEST

東証スタンダード 証券コード：7111



- ・長期契約プラン※の顧客増加

<p>もっとPREMIUMプラン 月々の料金がお得なレンタルプラン</p> <p>※注利用期間：5年</p> <p>月12L×2年ご利用の場合 3,974円/月(税込)~</p> <p>このプランについて詳しく見る ></p>	<p>ずっとPREMIUMプラン ベーシックなレンタルプラン</p> <p>※注利用期間：3年</p> <p>月12L×2年ご利用の場合 4,082円/月(税込)~</p> <p>このプランについて詳しく見る ></p>	<p>PREMIUM WATER MOM CLUB 妊婦又は未就学のお子様がいるご家庭限定</p> <p>※注利用期間：5年</p> <p>月12L×2年ご利用の場合 3,758円/月(税込)~</p> <p>このプランについて詳しく見る ></p>
--	---	--

※直近の新規獲得に関しては
5年契約が90%以上

顧客満足度向上

顧客ニーズに合わせた商品の研究・開発



グッドデザイン賞を受賞しました!



ユーザビリティの向上



パソコン、スマートフォンで利用可能な

- ・マイページ
- ・専用アプリ
- ・LINEアカウント
- ・会員限定通販サイト「プレミアムモール」



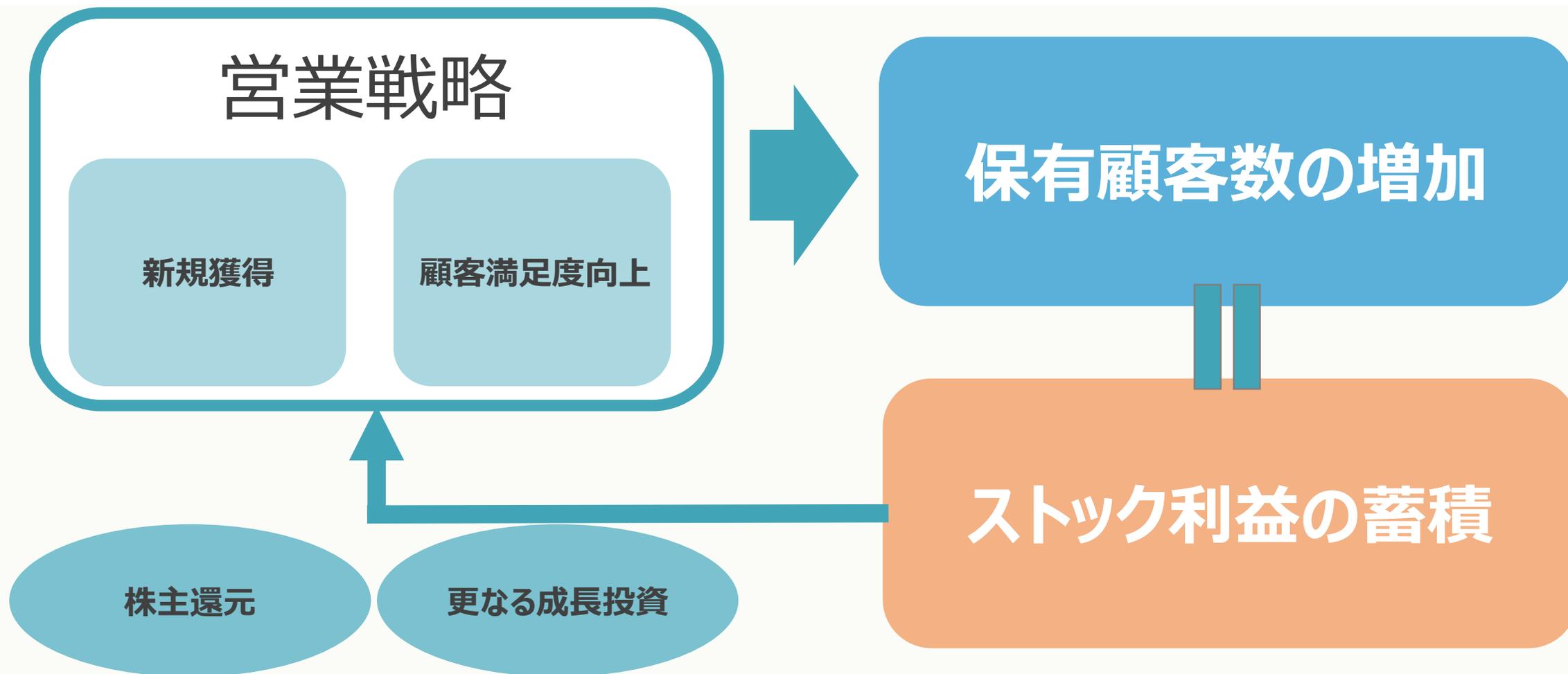
ペットボトル軽量化による環境に配慮した製品

天然水ボトル プラスチック使用量



「デカボスコア」とは、商品やサービスのCO2排出相当量の“削減率”を可視化した数値です。
当社の天然水12Lボトルは、一般的な500mlペットボトル24本と比較して、CO2排出量を52%削減できています。

営業戦略による保有顧客数増加により、「ストック利益」を積み上げることが、当社における安定的な成長の柱になる。



ストック利益とは、保有顧客によって将来にわたり継続的に生み出される利益。



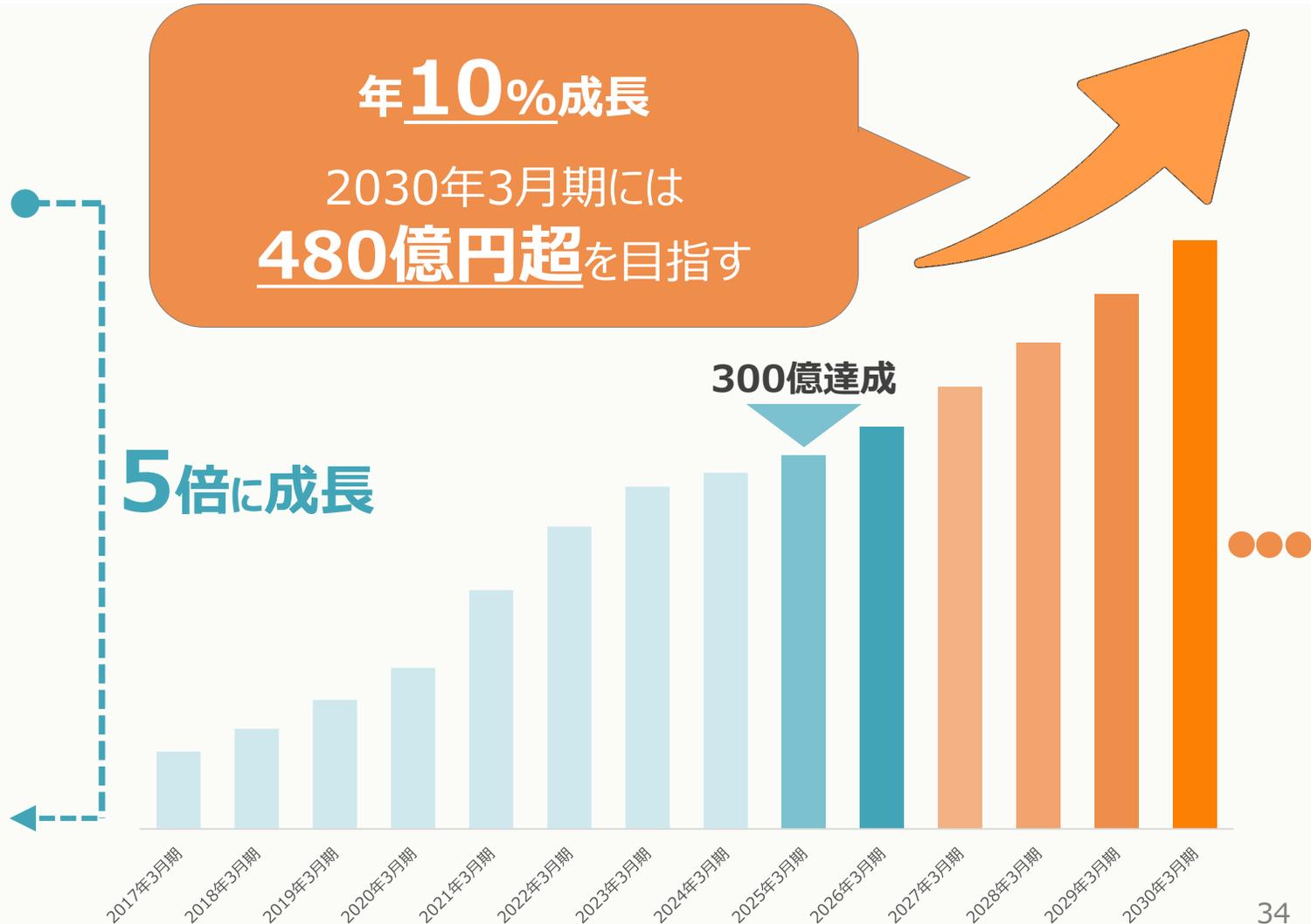


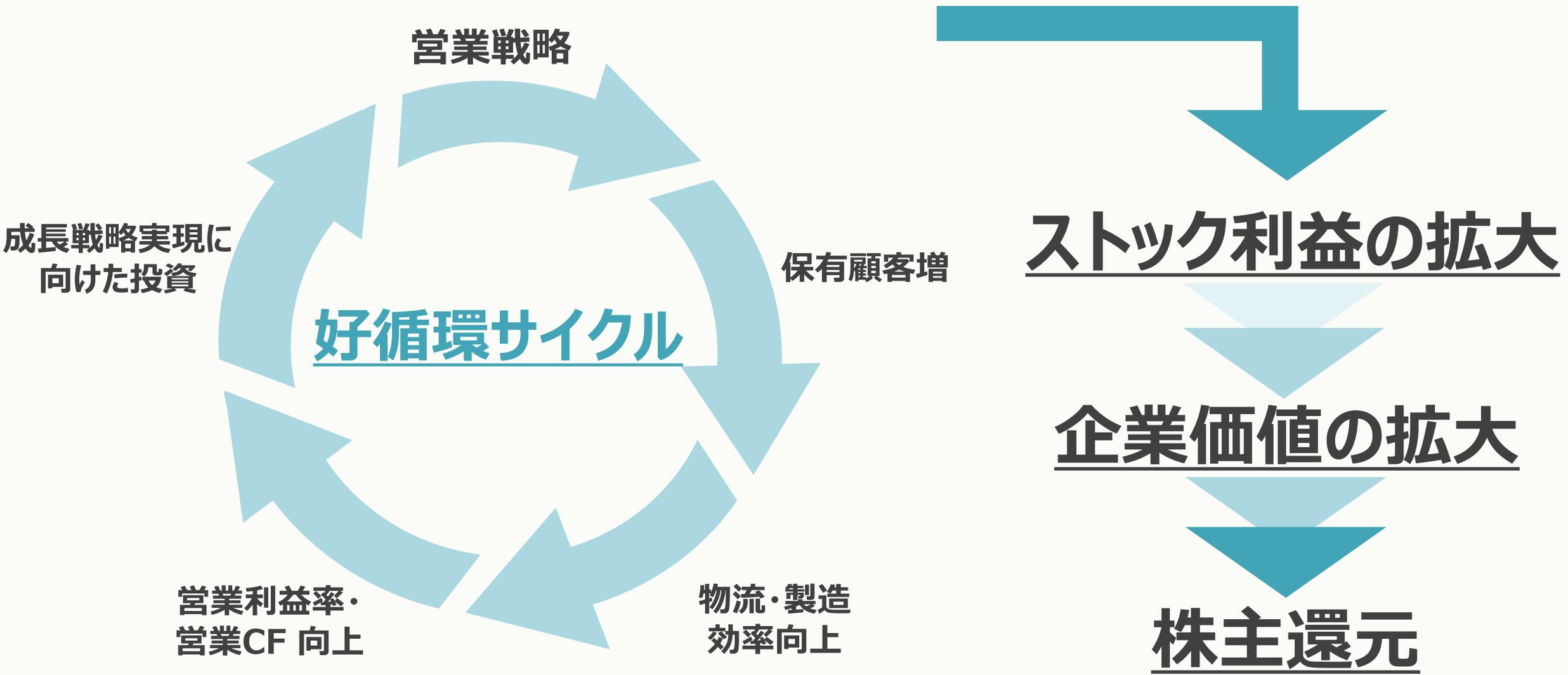
ストック利益については、2025年3月期末には300億円を達成。2026年3月期においては、**2017年3月期から5倍の330億円**を見込み、今後も継続的に**年10%の成長**を目指す。

■ ストック利益の金額推移

(百万円)

	上期（4月～9月）	通期
2017年3月期	2,978	6,337
2018年3月期	3,775	8,206
2019年3月期	5,187	10,592
2020年3月期	6,167	13,227
2021年3月期	9,389	19,601
2022年3月期	11,912	24,808
2023年3月期	14,000	28,094
2024年3月期	14,704	29,231
2025年3月期	15,336	30,701
2026年3月期 ※通期は予想	17,136	33,000







PREMIUM WATER
HOLDINGS

Appendix

(1) 会社概要・事業内容



会社名	株式会社プレミアムウォーターホールディングス
設立	2006年10月13日
所在地	<東京本社> 東京都渋谷区神宮前1-23-26 神宮前123ビル5階 <本店> 山梨県富士吉田市上吉田4597-1
代表者	代表取締役社長 金本 彰彦
従業員数	882名（役員、臨時従業員含まない） ※2025年3月31日現在
資本金	4,850百万円（連結） ※2025年9月30日現在
事業内容	自社ブランド「PREMIUM WATER」を中心とするミネラルウォーターの ウォーターサーバー事業を行う子会社等の経営管理及びそれに付帯又は関連する業務
主要なグループ会社	プレミアムウォーター株式会社 プレミアムウォータープロダクツ株式会社 株式会社LUXURY 株式会社PWリソース 株式会社ライフセレクト 株式会社プレミアムビジネスサポート SINGAPORE FLC PTE.LTD



当社は「100年続く企業」となるべく、以下の経営理念を軸に事業を行っています。

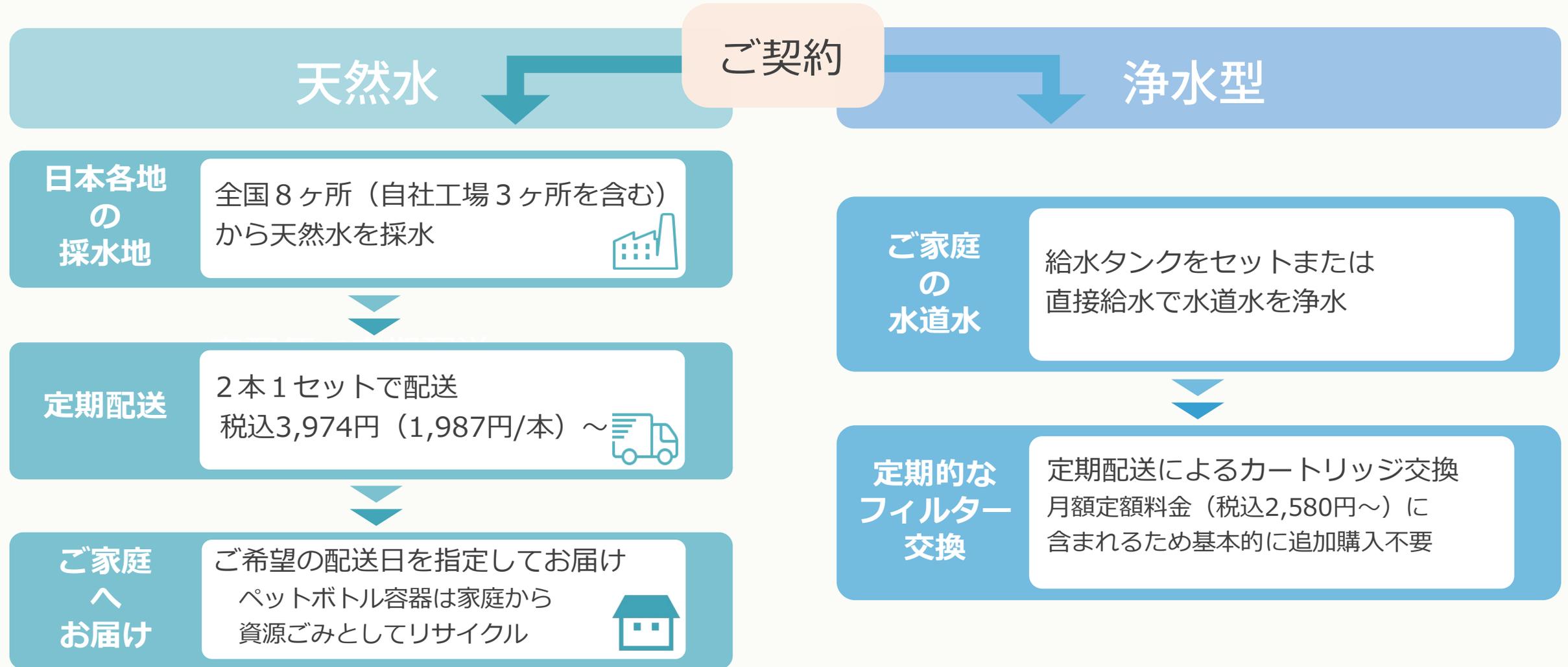
VISION

自社の活動を通じて人々の生活を豊かに
そして**世界で一番愛される会社へ**

MISSION

日本の天然水という唯一無二の価値を日本人に
そして世界に伝える事で社会的意義を果たし、地方創生を実現する

自社ブランド「PREMIUM WATER」を主軸とした、天然水および浄水型ウォーターサーバー事業を展開。





ウォーターサーバー需要の高まり



社会的背景
(外的要因)



水資源を未来へつなぎ、
日本の天然水の価値を高める

PWHD (プレミアムウォーターホールディングス) は

宅配水
業界シェア**No.1**(※1)

宅配水業界
最多の**8**水源

PWHD誕生以来
ユーザー数**連続更新**

安心・安全に注力した
浄水型の展開



PREMIUM WATER HOLDINGS

圧倒的な営業力

工場の最新化

配送効率の最適化

安心・安全な天然水を
安価で提供するための
基盤作り

製造原価を抑えながら
プラスチック量の少ない
容器で
おいしい水を全国へ

配送効率の最適化を図る
ための自社物流(※2)網を
維持することにより
物流コストの抑制を実現

※1 2025年9月末時点の当社顧客数(179万件) ÷ 日本宅配水&サーバー協会(JDSA)の統計数字に基づく 宅配水市場2025年3月末時点の予想顧客数(524万件)

※2 当社の配送管理システムに参加している配送パートナー

天然水という差別化が難しい商品で、**市場シェアNo.1**。競争優位を構築・維持する3つのポイント。

1 業界No.1の顧客獲得力

圧倒的な営業力がある直販のノウハウを代販へ伝えることで、**さらに強固な販売網**を構築。



2 業界No.1の8水源（うち自社工場3ヶ所）

月間 **約500万本**（約250万顧客相当）の生産能力を誇り、岐阜北方工場の竣工により、生産能力・生産効率が向上。

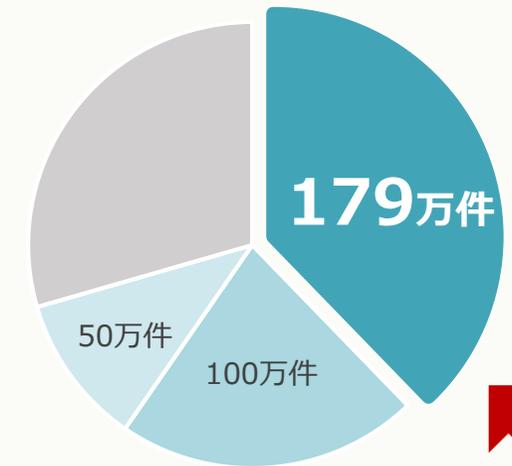


3 自社物流網の構築で効率的な配送

大手物流会社に左右されない自社物流網を構築したことにより、自社物流比率が**51.3%**まで上昇。**大幅なコスト削減**を実現。



ウォーターサーバー市場
顧客数 **No.1**
業界シェア **32.0%**^(※1)



(※2)

- プレミアムウォーターホールディングス
- A社
- B社
- その他

※1 JDSA2024年度宅配水業界統計より算出
※2 日本流通産業新聞2025年1月9日号より当社作成

顧客の増加により確実に収益増加が見込める、安定性の高いビジネスモデル。

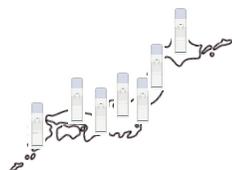
事業内容

天然水（宅配水）ウォーターサーバー
天然水の定期配送による安定した収益

浄水型ウォーターサーバー
月額定額制※による安定した収益
※サーバーレンタル料+浄水カードリッジ料+配送料

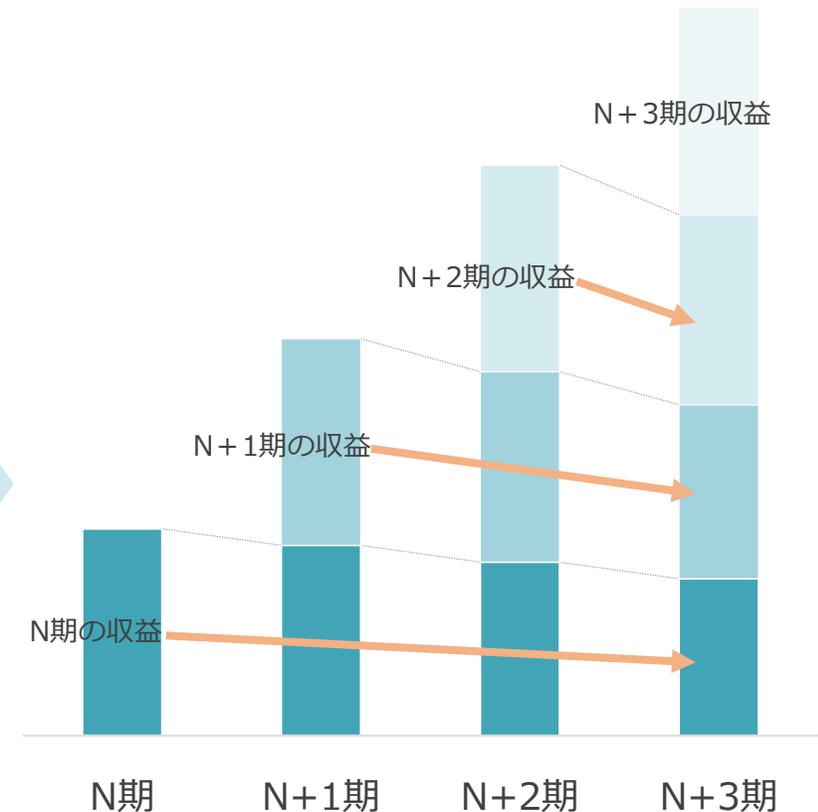


契約件数の増加

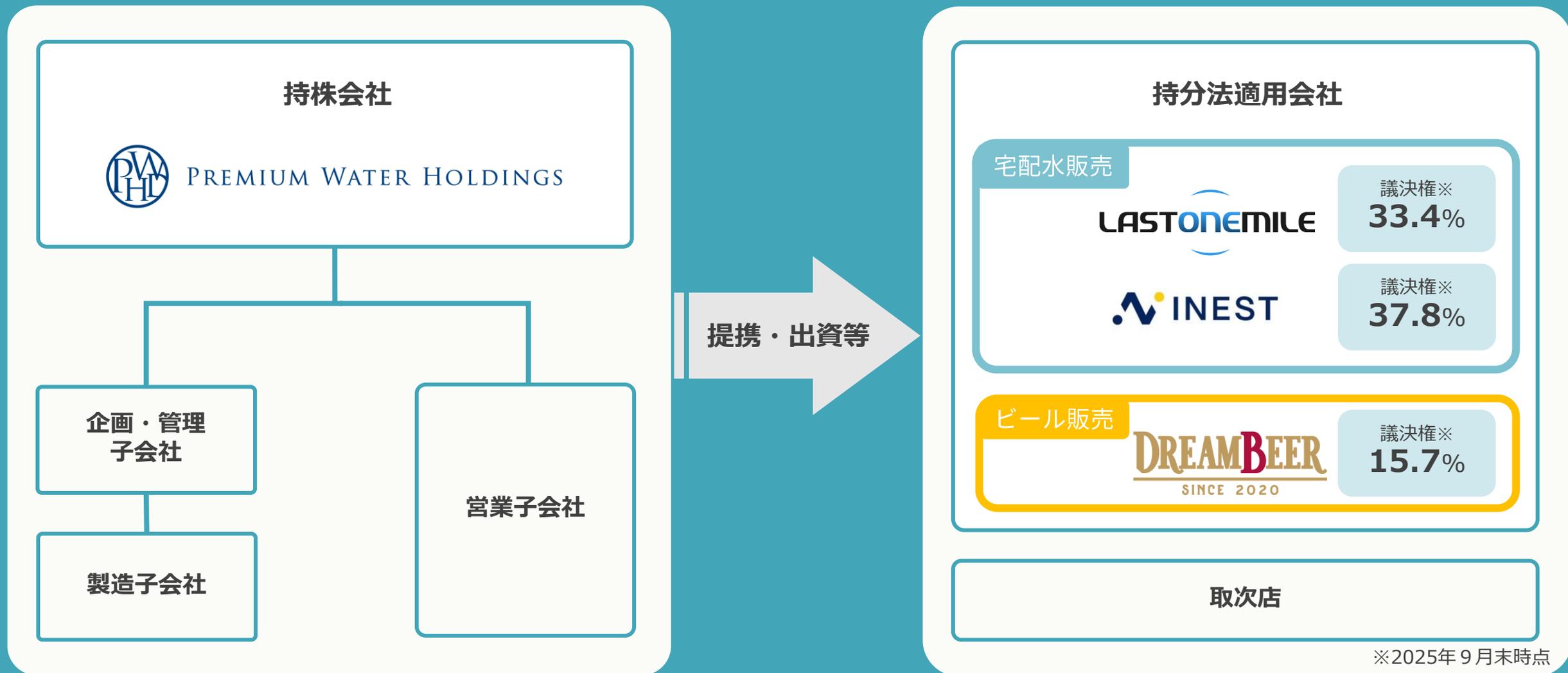


顧客1件あたりの
獲得コストが
一定水準であれば
収益が積み上がる

ストック型ビジネスモデル



効率的な製造・配送体制を構築しつつ、営業力強化への投資にも注力していく方針。



※2025年9月末時点



PREMIUM WATER
HOLDINGS

Appendix

(2) 資本コストと株価を意識した取組み



現状／課題点と今後

2026年3月期末の当社ROE予想は24.6%、PBRは2025年9月末時点のプライム市場の平均PBR1.3倍を大きく上回る3.59倍でした。投資を通じて更なるキャッシュフローの拡大に成功してきたことが主な要因であると認識しております。当社のビジネスモデル上、自己資本比率は2026年3月期第2四半期で22.7%と国内企業の平均よりも低い結果となっておりますが、目標の30%に向けて財務環境の改善による自己資本比率の向上を図る必要があると考えております。

2026年3月期は上場維持基準適合のため、基準を充たしていない流通株式比率の改善について親会社との協議を行っております。合わせて、主力事業（天然水および浄水型ウォーターサーバー事業）における売上収益の増加や営業利益率改善による利益の増加に取り組み、ステークホルダーの皆様へ利益の還元を続ける体制を引き続き整えてまいります。

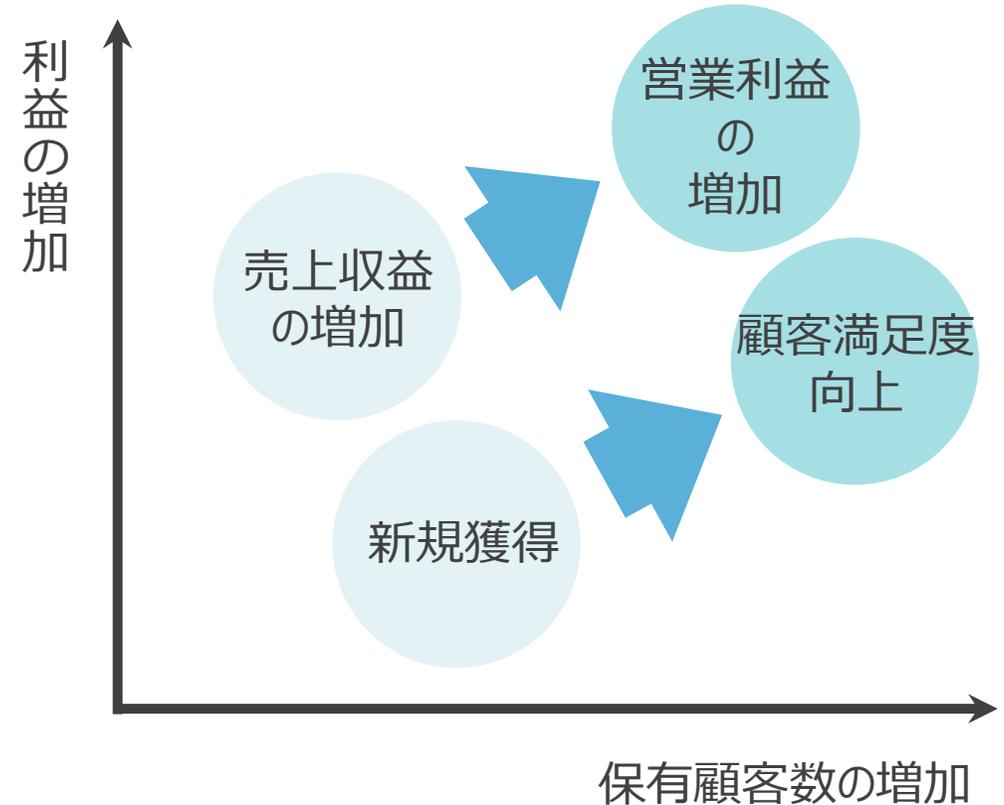
取組み方針

実務活動

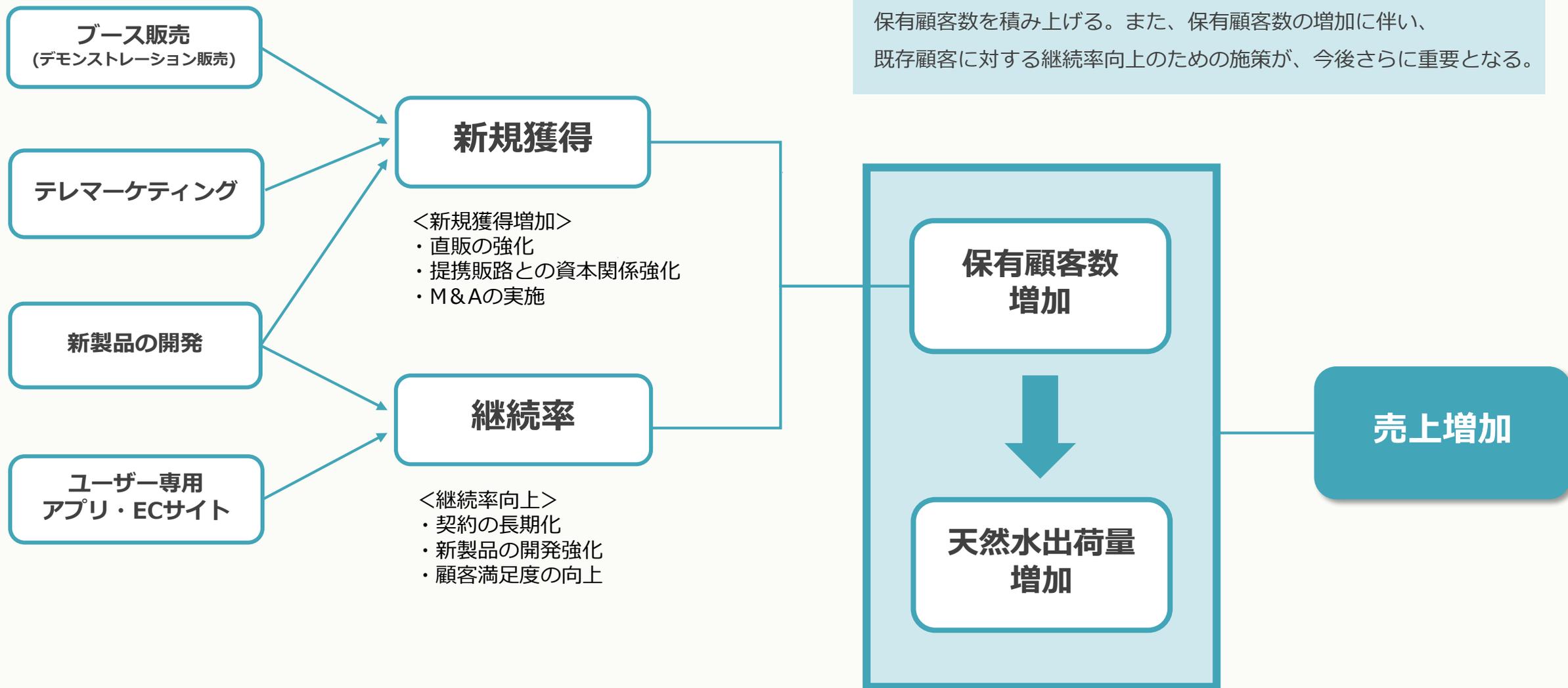
- ☑ ウォーターサーバー事業の利益拡大
- ☑ 株主還元の拡充
- ☑ キャッシュフローの改善
- ☑ コーポレートガバナンス体制の整備

IR活動

- ☑ 情報開示の充実
- ☑ 投資家との対話拡大



利益率を高めるための経営戦略を実施



業界シェアNo.1の顧客基盤の拡大に注力する。



顧客基盤拡大3つの施策

- ① 直販の生産性の強化
- ② メーカー特化型戦略による顧客満足度の向上
- ③ M&A・出資・業務提携による営業力の強化



PREMIUM WATER
HOLDINGS

Appendix

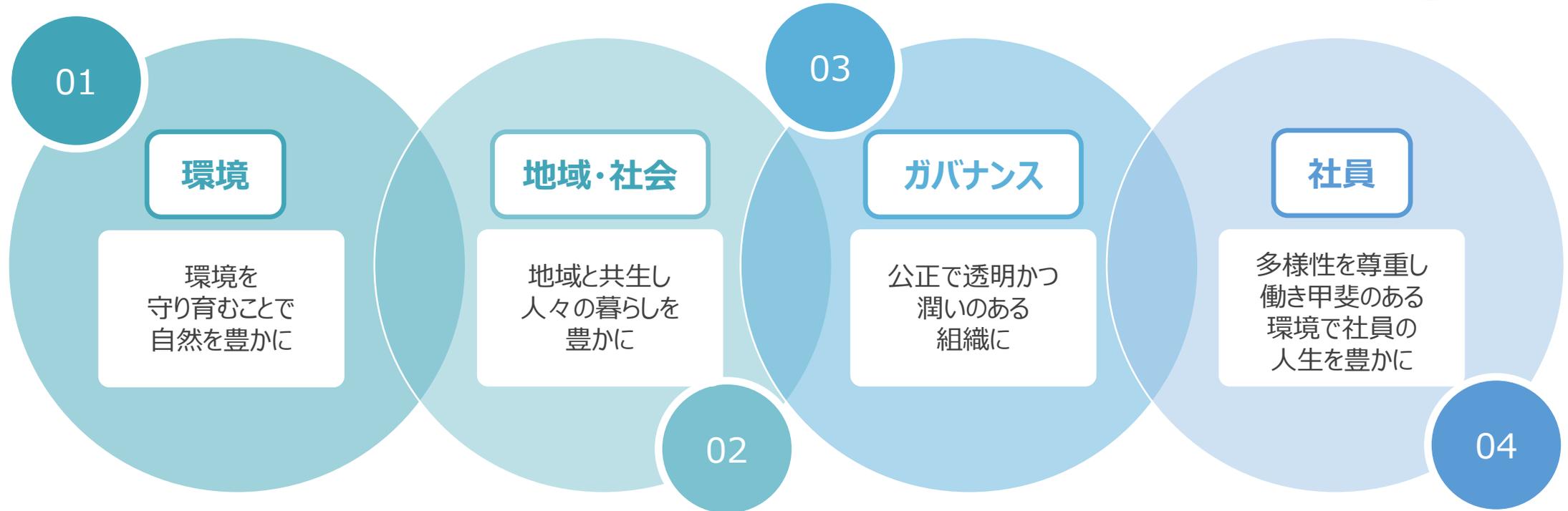
(3) SDGsの取組み



PREMIUM WATER
HOLDINGS

プレミアムウォーターホールディングスでは「水を守り、人を育てる」を掲げ、事業活動を通じたさまざまな社会課題に取り組み、私たちに関わる全ての人々が豊かになることを目指します。

そして社会課題の解決と経済発展の両立を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献していくことを宣言いたします。



- ・地下水を守る
- ・カーボンニュートラル推進
- ・プラスチック適正処理
- ・循環型社会の構築
- ・森林保全
- ・再生可能エネルギーの推進

- ・地方創生
- ・自然災害復興支援
- ・日本の貧困問題サポート
- ・子どもへの教育
- ・福祉施設の支援

- ・ガバナンスの徹底
- ・コンプライアンスの徹底

- ・ダイバーシティ推進
- ・働き甲斐の促進
- ・健康経営



安心・安全なお水を提供するために

定期的な調査報告

有機フッ素化合物（PFOS・PFOA）検査結果

有機フッ素化合物PFAS（ピーファス）のうち、有害性が指摘される規制対象物質「PFOS（ピーフォス）」と「PFOA（ピーフォア）」は検出されていません。
（2024年10月現在）

検査月	富士吉田	富士	北アルプス	岐阜北方	吉野	朝来	金城	南阿蘇
2024年 下期 (10月実施)	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし
2024年 上期 (5月実施)	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし
2023年 下期 (10月実施)	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし
2023年 上期 (5月実施)	検出なし	検出なし	-	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし	検出なし
2022年 下期 (11月実施)	-	-	検出なし	-	-	-	-	-

放射性物質検査結果

2025年

2025年3月分

- 放射線量 自主検査結果（富士吉田）
- 放射線量 自主検査結果（富士）
- 放射線量 自主検査結果（北アルプス）
- 放射線量 自主検査結果（岐阜北方）
- 放射線量 自主検査結果（朝来）
- 放射線量 自主検査結果（吉野）
- 放射線量 自主検査結果（金城）
- 放射線量 自主検査結果（南阿蘇）

3. 測定結果	核種名	測定結果 (Bq/kg)
	放射性ヨウ素131 (I-131)	検出されず
	放射性セシウム134 (Cs-134)	検出されず
	放射性セシウム137 (Cs-137)	検出されず
	放射性セシウム136 (Cs-136)	検出されず

地下水脈からくみ上げた原水は、4段階以上のフィルターで丁寧に除菌、クリーンルームで新品のペットボトルにボトリングされます。製造工程では、独自に設けた厳しい品質管理規定により、毎日定期的な水質検査や放射性物質検査がおこなわれており、定期的に検査結果を公開しています。



災害時の支援・復興サポート

工場地域と災害に備えた協定



山梨県富士吉田市、兵庫県朝来市と「災害時における飲料水の供給に関する協定」を締結しており、災害発生時に被災者に飲料水の提供が必要となった場合、無償供給およびサーバーの無償貸与を行います。

災害支援・復興サポート



西日本豪雨による被災地支援品の寄贈、熊本地震における義援金寄付、熊本復興支援イベントの開催等を行い、「令和6年 能登半島地震」においても、被災地支援を行っています。



地方創生への寄与

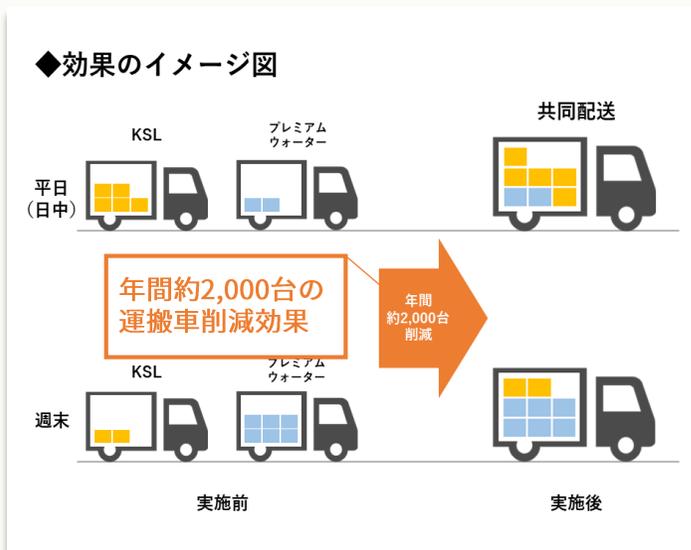


全国に拠点を設け、地方に水源を開拓し、雇用を創出いたします。

各工場においては、現地で採用活動を積極的に行い、工場がある地域の人々とその地域全体の活性化につなげています。



環境に配慮した新しい物流



物流コスト高騰の中、提携先企業と当社とで共同配送を実施し、物流の効率化とコスト削減を目指す。「2024年問題」をはじめとした社会課題の解決への貢献を目指し、環境負荷の低減を図る。

- 【主な取り組み】** 2023年12月、江崎グリコ（株）ら3社と、グリーン物流パートナーシップ優良事業者 特別賞を受賞。
2024年8月、コクヨサプライロジスティクス（株）との共同配送を開始。

ウォーターステーションの実施



イベントやライブ会場等にご来場いただいた皆様に無料でお水を提供する給水スポットである「ウォーターステーション」。特に夏場のイベントでは水分補給が重要であり、マイボトルを持参するだけで水分補給が可能なウォーターステーションは、熱中症予防の1つにもなります。また、来場者の方にマイボトルを持参していただくことで、環境に配慮したSDGsの取り組みの一環にもなります。

こども食堂へのお米寄付



貧困や孤食という問題を抱える子どもたちの食が少しでも豊かになることを目的に、貧困家庭や孤食の子どもに食事を提供する「子ども食堂」に自社富士吉田で収穫したお米を寄贈しました。

ウォーターエイドジャパンへの継続的な寄付



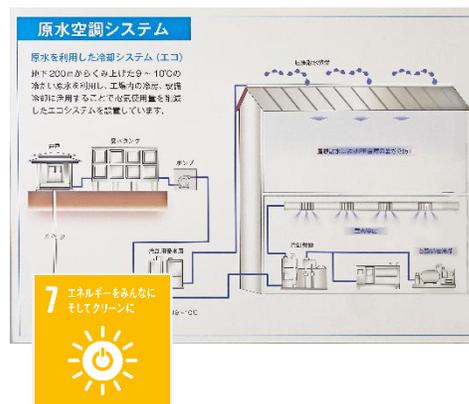
“SDGs特化型”の新たなウォーターサーバーブランド「PREMIUM WATER FUTURE」を立ちあげました。「PREMIUM WATER FUTURE」の売上の一部を愛すべき未来への想いを具現化する活動団体“ウォーターエイドジャパン”へ寄付することで、多くの人々が衛生的なお水を利用できるように支援しています。

災害時の支援・復興サポート



山梨県富士吉田市、兵庫県朝来市と「災害時における飲料水の供給に関する協定」を締結しており、災害発生時に被災者に飲料水の提供が必要となった場合、無償供給およびサーバーの無償貸与を行います。他にも、西日本豪雨による被災地支援品の寄贈、熊本地震における義援金寄付、熊本復興支援イベントの開催等を行い、「令和6年 能登半島地震」においても、被災地支援を行っています。

地下水の利用



富士吉田工場では、地下水200mからくみ上げた9度～10度の冷たい原水を利用し、工場内の冷房・設備冷却に活用することで電気使用料を削減したエコシステムを設置しています。

安心安全のナチュラルミネラルウォーター



同社グループの製品（ナチュラルミネラルウォーター）は、一般の公的基準よりも厳しい自社基準を設け、1日に10数回に及ぶ自主的な検査（水の微生物検査、理化学検査、官能検査）と定期的な放射線物質の検査を実施しています。また、赤ちゃんのからだにもやさしい「軟水」を提供しています。

PETボトルの軽量化



PETボトルの構造を変更し、2023年時点で20%軽量化（プラスチック使用量削減）を達成し、さらに2024年には3%の軽量化に成功しました。従来より23%軽量化した新たなペットボトルに順次入れ替え、2025年3月末までに全水源の約80%切り替えを完了しています。2025年度中に全水源の100%切り替えを目指しています。

公平な人事制度・ジェンダー平等への取り組み



人事考課での公平性を確保するために、人事ポリシー・考課制度を再整備しています。また、産前産後休業や育児休業・育児休業給付、育休中の社会保険料免除のほか、制度の周知や情報提供を行っています。

森林整備活動（西桂地区）



地域の水資源育成に向け、水源涵養機能の高い森が、良い水資源を生み、豊かな食生活を生むという考えから、西桂工場のある山梨県の西桂地区において健全な森を作る間伐等の整備を行っています。



1. 掲載された情報についてご注意いただきたい点

当資料を通じ、財務情報、経営指標等の情報の開示を行います。当社は、当資料を通じて情報開示を行うにあたり細心の注意を払っておりますが、当資料に掲載した情報について内容の正確性等を保証いたしません。当資料による情報開示は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終的な決定は、ご自身の判断でお願い致します。当社は、当資料に掲載された情報を利用したことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

2. 将来の見通しに関する事項について

当資料に掲載されている情報には、業績予測等の将来の見通しに関する記述が含まれていますが、これらはリスクや不確実性を内包するものです。業績予測等の将来の見通しに関する記述は、その実現性を保証するものではなく、当社を取り巻く経営環境や市場動向の変化等により、実現しない可能性があることにご注意ください。

3. 当資料の運用について

当資料は予告なく配布の中止や内容の変更を行うことがあります。当社は、当資料を利用できなかったことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

<お問い合わせ先>

株式会社プレミアムウォーターホールディングス IR担当
<https://premiumwater-hd.co.jp/contact/>



PREMIUM WATER
HOLDINGS